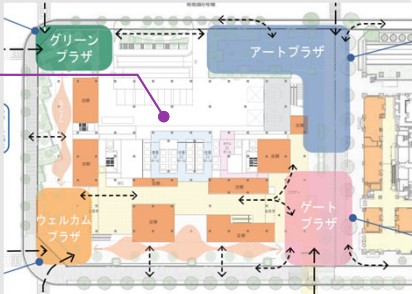
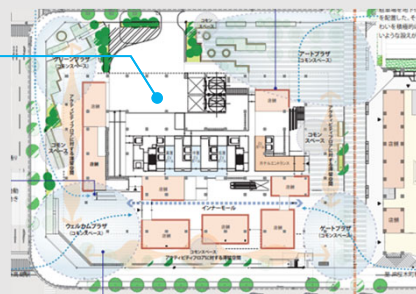


審議状況		第 4 3 回		第 4 6 回（報告）		現 況			
協議資料 現況写真									
									
▲歩行者空間イメージ		▲歩行者空間イメージ		▲歩行者空間					
主なポイント		指摘事項		指摘事項 / 対応状況		景観形成の考え方			
A. ファード 全体					分節化による圧迫感の低減 ・ 中層部は、窓ガラスの位置をずらすことにより表面の変化をつけ、ファサードを細分化したデザインとしている。 ・ 高層部は、海側から見た時の角部分の開口部を大きくとることで、変化をつけ軽やかに見せている。				
C. 高層部	① ・ 高層部の圧迫感が気になるので、ファサードの作り方等を工夫してほしい		③ ・ ホテルとオフィスの間のホテルロビー階の分節されたファサード部分のつながりが不安定に感じる ① ・ 分節化を強調した意匠とすることで圧迫感を軽減						
E. 歩行者空間	② ・ 横浜美術館に向けて隣の建物と同じ間隔を開けた面がデッキだと、中心軸を通して見るようには見えない ・ 4つの広場の作り方を工夫すべき		② ・ デッキ上部のピロティを無くし、美術館に対して左右対称のプロポーションとすることで中心軸を強調 ・ 駐車場の斜路を無くすることで広場をつなぐ外構の空間を創出						
						4つの広場による低層部のにぎわいづくり ・ 街区の4つの角に既存の街の特徴とリンクするような4つの性格の広場を設けている。 ①ゲートプラザ : 桜木町駅方面からの玄関口として、1階だけでなくデッキ階にも広い空間を確保し、敷地内外の歩行者ネットワークの起点として計画。 ②ウェルカムプラザ : みなとみらい大通り沿いの玄関口であり、建物の顔となるようなダイナミックな広場。 ③グリーンプラザ : 緑が多く、人々の憩いの場。 ④アートプラザ : 本計画で最も大きな広場空間であり、隣接する横浜美術館等と呼应したイベント開催も想定して計画。			
▲Planイメージ		▲Planイメージ		▲Planイメージ		立体駐車場を地下化して広場を確保 ・ 当初計画していた立体駐車場を地下化することにより、美術館側の広場を十分に確保する計画としている。 ・ にぎわいを積極的に表出することにより、閉鎖的に見えない設えを可能としている。			

審議経緯

審議 43（2018年5月7日）	報告 46（2018年9月14日）
【ファサード】 横浜美術館寄りの裏側感を減らす工夫ができないか。 【高層部】 高層部の圧迫感が気になる。ファサードの作り方等に工夫をしてほしい。① 【歩行者空間】 横浜美術館に向けて隣の建物と同じ間隔を開けたという配慮は良いが、その面がデッキだと、中心軸を通しているようには見えないのではないか。② 三菱重工横浜ビルとともに、オープンスペースの活用をしてほしい。 4つの広場の作り方を工夫すべき。② MM大通りの景観形成や動線の考え方は検討が必要。	【ファサード】 ファサードの工夫は不十分だが、一定の工夫はされたと評価すべき。これが精一杯か。ファサードの分節について、ホテルとオフィスの間のホテルロビー階のデザインについては、つながりが不安定に感じる。③ 【低層部】 足元は、立体駐車場が無くなり、機械室も場所を変え、使いやすい広場ができた。 【植栽・ランドスケープ】 植栽帯は細かすぎる印象。ゆったり緩やかな感じで良いかもしれない 【仕組み制度】 隣接民地空間の活用は努力してほしい。横浜市からも働きかけを。

開発概要	
①建物名	横浜コネクトスクエア
②住所	西区みなとみらい3-3
③用途地域	商業地域(80%/800%),第7種高度地区,最低限第1種高度地区,防火地域
④まちづくりに関する制度	市街地環境設計制度 みなとみらい中央地区地区計画
⑤敷地面積㎡	10,082.2
⑥建築面積㎡	6,107.7
⑦延床面積㎡(建築物全体)	105,849.13(121,711.75)
⑧容積率(%)	1,049.87
⑨建蔽率(%)	60.58
⑩階数	地上28階,地下1階
⑪最高高さ(m)	145.82
⑫用途・機能	ホテル、店舗、事務所
事業者	
①事業者	合同会社KRF48
②設計者	鹿島建設(株)一級建築士事務所
③施工者	鹿島・フジタ・馬淵・太陽建設共同企業体